



レポートの実行

WCS のレポート作成は、問題のトラブルシューティングにはもちろん、システムの監視とネットワーク状態の監視に必要です。複数のレポートを、即時でも定期的にも実行して生成できます。レポートの種類ごとに、レポートの定義に役立つユーザ定義の条件がいくつか用意されています。レポートの形式には、概要、表、またはグラフ式レイアウトがあります。一度定義しておけば、今後の診断用に保存したり、定期的に行ってレポートを作成できるよう指定できます。

レポートは CSV 形式または PDF 形式のいずれかに保存して、後からダウンロードできるよう WCS 上のファイルに保存することも、指定の電子メールアドレス宛に送信することもできます。

レポートには、次の種類があります。

- 最新版。連続ポーリングせず、最後のポーリング周期からデータのスナップショットを表示します。
- 履歴。デバイスから定期的にデータを取得し、そのデータを WCS のデータベースに保存します。
- 動向。集積データからレポートを生成します。ユーザが定義した間隔でデバイスから定期的にデータを収集できるほか、レポートの生成スケジュールを作成できます。

どのレポートも WCS を使用してエクスポートでき、これを表示したり、論理グループにソートしたり、長期間保管することができます。



(注)

ウィンドウ画面に表示されたとおりにレポートを印刷するには、横長モードを選択してください。

Reports メニューから使用できる種類は、次のとおりです。

- [アクセスポイントのレポート \(P. 14-5\)](#)
- [監査レポート \(P. 14-7\)](#)
- [クライアントレポート \(P. 14-9\)](#)
- [インベントリレポート \(P. 14-11\)](#)
- [メッシュレポート \(P. 14-13\)](#)
- [パフォーマンスレポート \(P. 14-16\)](#)
- [セキュリティレポート \(P. 14-18\)](#)

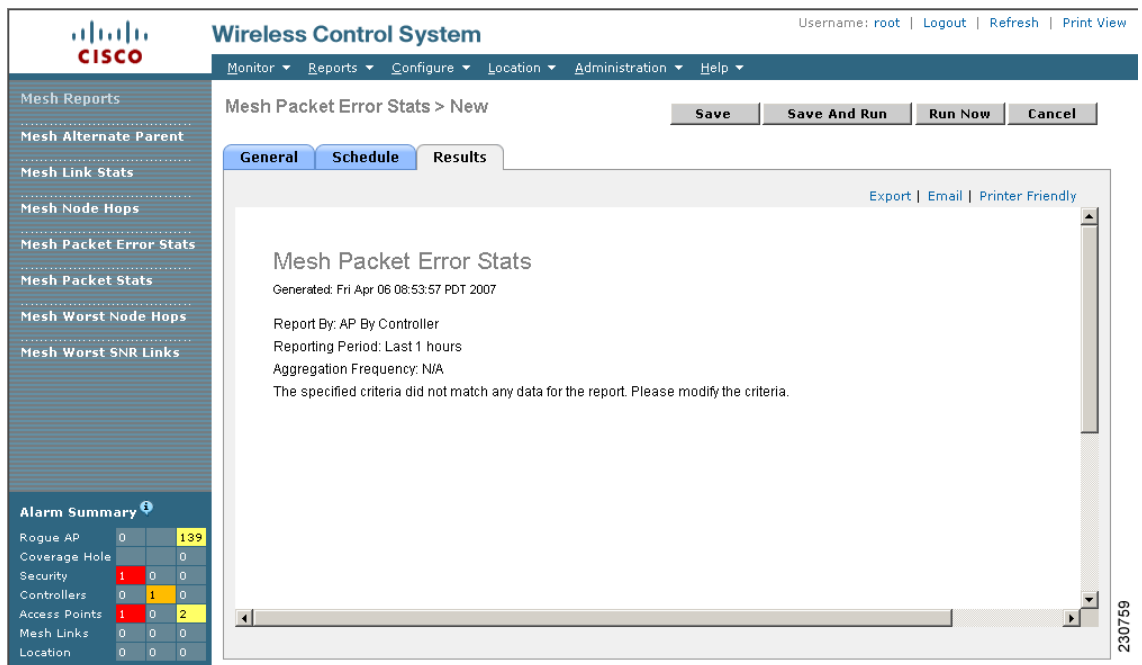
レポートの選択

Reports メニューから上記オプションのうちいずれかを選択すると、作成されたレポート タスクの一覧がウィンドウに表示されます。次の操作のうちいずれかを実行します。

- レポートのスケジュールをオンまたはオフにするには、「スケジュールのオンとオフ」の項 (P. 14-2) を参照してください。
- レポートを削除するには、「レポートの削除」の項 (P. 14-3) を参照してください。
- 定義済みファイルがなく、レポートを作成するには、Select a command メニューから **New** を選択してください。GO をクリックすると、General と Schedule の 2 つのパネルが新たに表示されます。General パネルでは、データ収集パラメータを設定できます。Schedule パネルでは、ユーザが指定した内容に基づいて、レポートの実行時と実行方法を管理できます。「Schedule パネルの開き方」の項 (P. 14-3) を参照してください。

レポートを実行すると、Results タブにレポート データが表示されます (図 14-1 参照)。

図 14-1 Results タブ



スケジュール済みの実行内容が発生すると、History タブが表示されます。

スケジュールのオンとオフ

定義済みレポートをオンにするには、レポートの隣のチェックボックスをオンにして、Select a command メニューから **Enable Schedule** を選択します。Go をクリックします。レポートのスケジュール時間が経過していた場合は、Schedule 列に *Expired* と表示されます。これを修正するには、レポート時間をクリックし、表示されたウィンドウに別の時間パラメータを入力します。

定義済みレポートをオフにするには、レポートの隣のチェックボックスをオンにして、Select a command メニューから **Disable Schedule** を選択します。Go をクリックします。Schedule 列に、無効化の状態が表示されます。

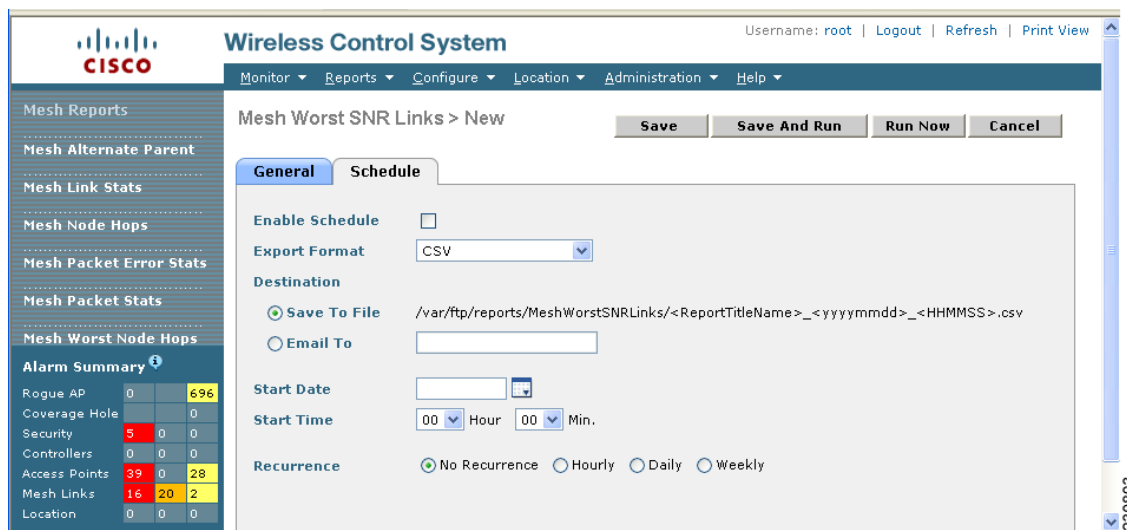
レポートの削除

定義済みレポートを削除するには、レポートの隣のチェックボックスをオンにして、**Select a command** メニューから **Delete** を選択して **GO** をクリックします。リストからレポートが削除されます。

Schedule パネルの開き方

Schedule パネルは、どのレポートでも同じ形です。Schedule タブを選択すると、Schedule ウィンドウが表示されます (図 14-2 参照)。

図 14-2 Schedule タブ



どのレポート種類でも、**Schedule** タブを選択した後の手順は次のとおりです。

- ステップ 1** **Enable Schedule** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 2** **Export Format** ドロップダウンメニューから、エクスポート形式を **.csv** (アクセスポイントの MAC アドレスを記載したファイル) と **.pdf** のどちらにするか指定します。
- ステップ 3** 保存先の種類として、**Save to File** または **E-mail To** を選択します。
 - **Save to File** オプションを選択する場合は、先に **Administration > Settings > Report** ページで保存先パスを定義しておく必要があります。Repository Path フィールドに、ファイルの保存先パスを入力します。
 - **E-mail to** オプションを選択する場合は、目的の電子メールアドレスを入力する前に、**SMTP Mail Server** を定義しておく必要があります。**Administrator > Settings > Mail Server** の順に選択して、該当する情報を入力します。
- ステップ 4** 所定のフィールドに開始日 (MM:DD:YYYY 形式) を入力するか、カレンダーのアイコンをクリックして日付を選択します。その日になると、レポートの実行が開始されます。
- ステップ 5** 開始時刻を、時間と分のドロップダウンメニューで指定します。

ステップ 6 recurrence ボタンのうちいずれかをクリックして、レポートの実行間隔を選択します。

ステップ 7 入力が完了したら、次のいずれかを実行します。

- **Save** をクリックして、入力内容を保存します。
- **Save and Run** をクリックして、変更内容を保存し、レポートをすぐに実行します。レポートが実行され、**Schedule** タブで定義したとおりに、結果が電子メールで送信されるか、保存先ファイルに保存されます。スケジュールしておいた時間になるとレポートが再び実行されます。
- レポートをすぐに実行して結果を **WCS** ウィンドウで確認するには、**Run Now** をクリックします。そのレポートに関連付けられているスケジュール時間に関係なく、レポートが実行されます。



(注) Run コマンドを使用すると、保存する前にレポートのシナリオをチェックできたり、必要に応じて一度限りのレポートを実行できます。

アクセス ポイントのレポート

左側のサイドバーのメニューに、アクセス ポイントのレポートのオプション全体が一覧表示されます。



(注) アクセス ポイントのレポートには、Autonomous アクセス ポイントのステータスは表示されません。

選択肢には、次のようなものがあります。

- 位置別および SSID 別 AP リスト レポート: 特定の物理領域にあり、特定の SSID を持つアクセス ポイントの情報を表示します。
- AP プロファイル ステータス レポート: 特定の物理領域にあり、特定の SSID を持つアクセス ポイントの情報を表示します。
- AP Up Times: このレポートはアクセス ポイントのさまざまなアップ タイム情報を表示します。AP アップ タイム、LWAPP アップ タイム、および LWAPP 接続時間から選択して、アップ タイムが短いものから長いもの、または長いものから短いものの順でレポートを並べ替えられます。返される生成データには、最もアップ タイムの長かったアクセス ポイントと最もアップ タイムの短かったアクセス ポイントが含まれます。レポートには、アクセス ポイントと該当する場合はマップ上の位置も表示されます。
- 最もビジー状態の AP レポート: アクセス ポイントの使用率の合計について情報を表示します。使用率の合計とは、送信、受信、チャンネル使用率の合計を指します。
- トラフィック ストリーム メトリック レポート: 音声トラフィックのストリーム メトリックと、高密度に関するレポートを表示します。コントローラは、クライアントごとに音声メトリックデータのレコードを複数保存しています。アクセス ポイントでは、オンデマンド レポートを生成するために、90 秒ごとにコントローラのトラフィック ストリーム メトリック情報を更新し、一度に 10 分間分のデータが格納されます。WCS は、コントローラからデータをポーリングし、そのデータを時間単位、日単位、および週単位で集積します。返される生成データには、次のようなものがあります。QoS レベル、ダウンリンクおよびアップリンクでのパケット損失率 (%)、キューイング遅延など。
- グラフ形式のトラフィック ストリーム メトリック レポート: トラフィック ストリーム メトリック (グラフ形式) レポートは、トラフィック ストリーム レポートと同じものですが、情報がグラフ形式で表示されます。

アクセス ポイントのレポートの表示および変更

既存のアクセス ポイント レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Reports > Access Point Reports の順に選択します。Access Point Report ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、Access Point Report の種類を選択します。
- ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
- ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「Schedule パネルの開き方」の項 (P. 14-3) を参照してください。
- ステップ 5** 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、History タブをクリックします。

アクセスポイントレポートの新規作成

アクセスポイントレポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

-
- ステップ 1** Reports > Access Point Reports の順に選択します。Access Point Reports ページが表示されます。
- ステップ 2** Access Points Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
- ステップ 3** Select a Command ドロップダウンメニューから **New** を選択し、**GO** をクリックします。
- ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
- ステップ 5** Report By ドロップダウンメニューから、レポート対象の物理領域を選択します。次のようなオプションが用意されています。
- AP By Outdoor Area : アクセスポイントごとに、屋外領域のレポートを生成します。
 - AP by Floor Area : アクセスポイントごとに、フロア領域のレポートを生成します。
- ステップ 6** 次のいずれかを実行します。
- 屋外を選択する場合、キャンパスおよび屋外領域の位置を指定する必要があります。
フロア領域を選択する場合、その領域があるキャンパス、ビルディング、およびフロアを選択する必要があります。
- ステップ 7** レポートに記載するアクセスポイントを指定します。
- ステップ 8** レポートに、802.11a/n または 802.11b/g/n 無線を記載するかどうか指定します。
- ステップ 9** **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
-

監査レポート

ネットワーク設定監査レポートには、コントローラの監査ステータスについての情報と WCS とコントローラ間の設定の相違についての詳細が表示されます。このレポートのデータは、ネットワーク監査設定タスクによって収集されます。これは新しくインストールされた WCS システムでデフォルトで有効になっており、7 日ごとに実行されるようにスケジュールされています。バックグラウンドタスクの頻度を変えるには、「バックグラウンドタスクの実行」の項 (P. 15-2) を参照してください。レポートには、各コントローラの監査ステータスと設定での属性の相違が表示されます。ネットワーク監査設定タスク中に到達できないコントローラも一覧表示されます。監査レポートの認証はセキュリティフレームワークと密接に関連しているため、特定のユーザしかアクセスできません。デフォルトでは、管理者、設定マネージャ、システムの監視、スーパーユーザ、ルートユーザがアクセスできます。



(注) 監査レポートには、Autonomous アクセスポイントのステータスは表示されません。

監査レポートの表示と変更

既存の監査レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 Reports > Audit Reports の順に選択します。Audit Report ページが表示されます。

ステップ 2 左側のパネルから、Audit Report の種類を選択します。

ステップ 3 General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。



(注) レポートには、監査されていないコントローラや到達できないコントローラも一覧表示されます。

ステップ 4 スケジュール処理を完了するには、「Schedule パネルの開き方」の項 (P. 14-3) を参照してください。

ステップ 5 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、History タブをクリックします。

ネットワーク設定監査レポートの新規作成

監査レポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

ステップ 1 Reports > Audit Reports の順に選択します。Audit Reports ページが表示されます。

ステップ 2 Audit Reports（左側）の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。現在使用できるネットワーク設定監査レポートは 1 つだけです。



(注) クリーンインストールの場合、Background Tasks > Network Audit が有効になります。

ステップ 3 Select a Command メニューから **New** を選択します。**Go** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。

ステップ 4 レポートのタイトルを指定します。

ステップ 5 レポートにコントローラをすべて含めるか、選択したコントローラのみを含めるかを指定します。

ステップ 6 Audit Time ドロップダウンメニューで最新のレポートを表示するか、ネットワーク監査時刻から選択するかを指定します。監査時刻とは、ネットワーク監査バックグラウンドタスクが除外された時刻です。デフォルトの選択肢は、*Latest* です。

ステップ 7 **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。



(注) Run Now を選択してレポートを実行することもできます。レポートには、ネットワーク監査タスクによって収集されたデータが表示されます。適切なネットワーク監査スケジュールを設定する必要があります。

クライアント レポート

指定の期間、ネットワークにアクセスしたすべての固有のクライアントについて、レポートを実行できます。たとえば、この 3 日間で、所定フロアにあったクライアントをすべて表示し、詳細なネットワーク アクティビティを表示できます。



(注)

クライアント数レポートは、Autonomous アクセス ポイントのステータスを表示する唯一のクライアント レポートです。

クライアント レポートのオプションは、次のとおりです。

- 最もビジー状態のクライアント レポート：指定の期間、総スループットの点で最もビジー状態だったクライアントについて表示します。
- クライアントのアソシエーション レポート：コントローラから収集したとおり、クライアントの詳細なアソシエーション履歴を表示します。返される生成データには、次のようなものがあります。アクセス ポイントがアソシエートするクライアントのユーザ名と MAC アドレス、およびステータス。
- クライアント数レポート：指定デバイス経由で接続されたクライアント数、指定の地域内で接続されたクライアント数、指定の SSID で接続されたクライアント数についてデータを表示します。
- トラフィック ストリーム メトリック レポート：クライアントについて、音声トラフィックのストリーム メトリックと高密度に関するレポートを表示します。コントローラは、クライアントごとに音声メトリック データのレコードを複数保存しています。返される生成データには、次のようなものがあります。QoS レベル、ダウンリンクおよびアップリンクでのパケット損失率 (%)、キューイング遅延など。
- 固有クライアント レポート：指定の期間、ネットワークにアクセスした固有のクライアントを表示します。たとえば、この 3 日間の所定のフロアのクライアントをすべて表示して、そのネットワーク アクティビティの詳細を表示できます。返される生成データには、次のようなものがあります。クライアントのアクセス ポイントがアソシエートするクライアントのベンダーと MAC アドレス、およびクライアントがサポート対象とする Cisco Compatible Extensions バージョン。
- V5 Client Statistics Report: 認証済みでアソシエートが完了している状態の V5 クライアント以上のクライアント統計を収集します。レポートには、Dot11 統計測定のカウンタとセキュリティ統計測定が含まれます。V5 クライアントが存在する場合、Dot11 測定の要求が行われ、要求に成功すると、データベースにクライアントの Dot11 応答が読み込まれます。セキュリティ要求が行われ、成功すると、データベースにクライアントのセキュリティ応答が読み込まれます。

クライアント レポートの表示と変更

既存のクライアント レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Reports > Client Reports** の順に選択します。Client Report ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、Client Report の種類を選択します。
- ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
- ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。

ステップ 5 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、**History** タブをクリックします。

クライアントレポートの新規作成

クライアントレポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

- ステップ 1** **Reports > Client Reports** の順に選択します。Client Reports ページが表示されます。
- ステップ 2** Client Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
- ステップ 3** Select a Command ドロップダウンメニューから **New** を選択し、**GO** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。
- ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
- ステップ 5** レポートに表示するクライアント数を入力します。
- ステップ 6** ALL SSIDs を選択するか、または特定の SSID を選択して、SSID を使用するアクセスポイントのレポートを限定します。
- ステップ 7** 特定のクライアントの MAC アドレスを入力します。MAC アドレスを何も指定しないと、すべてのクライアントが SSID ごとに再表示されます。
- ステップ 8** コントローラ、フロア領域、屋外領域、フロア別 AP、屋外領域別 AP、または SSID 単位でレポートを表示するかどうかを指定します。フロア領域および屋外領域レポートは、領域単位でレポートを生成しますが、フロア別 AP または屋外領域別 AP はアクセスポイント単位でレポートを生成します。
- ステップ 9** コントローラを選択した場合は、コントローラの IP アドレスを入力してください。フロア領域またはフロア領域別 AP を選択した場合は、キャンパス、ビルディング、およびフロアの位置を入力してください。屋外領域または屋外領域別 AP を選択した場合は、キャンパスおよび屋外領域を入力してください。
- ステップ 10** レポートに記載するアクセスポイントを指定します。
- ステップ 11** レポートに、802.11a/n または 802.11b/g/n 無線を記載するかどうか指定します。
- ステップ 12** Reporting Period セクションで、**Last** を選択して記載対象の時期を指定するか、または **Between** を選択し、カレンダーのアイコンで日付を選択して時間と分を設定します。
- ステップ 13** **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。

インベントリ レポート

左側のサイドバーのメニューに、インベントリ レポートのオプション全体が一覧表示されます。このレポートは、WCS データベースにすでに保存されているデータを基に生成されます。インベントリ レポートはオンデマンドレポートではないため、保存後に設定が変更される場合があります。また、保存データに反映されているコントローラの属性がコピーされていないことがあります。



(注)

インベントリ レポートには、Autonomous アクセス ポイントのステータスは表示されません。

選択肢には、次のようなものがあります。

- **Access Point Inventory Report** : 配置したアクセス ポイントについてのデータを表示します。返されるデータには、次のようなものがあります。アクセス ポイントの MAC アドレス、モデル、位置、無線ステータスなど。
- **統合済みインベントリ レポート** : 配置したコントローラ、アクセス ポイント、および Location Appliance についてのデータをすべて表示します。
- **コントローラ レポート** : 配置したコントローラについてのデータを表示します。返されるデータには、次のようなものがあります。モデル、IP アドレス、コントローラのシリアル番号、搭載ソフトウェア バージョン、配置位置など。
- **ロケーション サーバ レポート** : 配置した Location Appliance についてのデータを表示します。返されるデータには、次のようなものがあります。Location Appliance の IP アドレスとバージョン、使用ポート、Appliance の起動時刻など。

インベントリ レポートの表示と変更

既存のインベントリ レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Reports > Inventory Reports** の順に選択します。Inventory Reports ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、Inventory Report の種類を選択します。
- ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
- ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
- ステップ 5** 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、**History** タブをクリックします。

インベントリ レポートの新規作成

インベントリ レポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

-
- ステップ 1** **Reports > Inventory Reports** の順に選択します。Inventory Reports ページが表示されます。
 - ステップ 2** Inventory Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
 - ステップ 3** Select a Command ドロップダウンメニューから **New** を選択し、**GO** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。
 - ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
 - ステップ 5** **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
-

メッシュ レポート

メッシュ レポートは、メッシュ ネットワークの分析と診断に使用します。左側のサイドバーのメニューに、メッシュ レポートのオプション全体が一覧表示されます。



(注)

メッシュ レポートには、Autonomous アクセス ポイントのステータスは表示されません。

1510 メッシュ アクセス ポイント向けに生成できるレポートには、次のようなものがあります。

- **メッシュで代替できる親**：メッシュ アクセス ポイントに使用できる代替可能な親の数を一覧表示します。ゼロ (0) の場合は、そのメッシュ アクセス ポイントに代替可能な親がないことを表します。
- **メッシュ リンクの統計**：送信されたパケット、パケット エラー率、親の変化、SNR、ルート アクセス ポイントからのホップなど、メッシュ アクセス ポイントのリンクの統計を一覧表示します。
- **メッシュ ノードのホップ**：メッシュ アクセス ポイントとルート アクセス ポイント間のホップ回数を一覧表示します。
- **メッシュ パケットのエラー統計**：近接のメッシュ アクセス ポイントから送信されたパケットのパケット エラー率 (%) を表します。パケット エラー率 (%) = 1 - (正常に送信されたパケット数 / 送信パケット総数)
- **メッシュ パケットのキュー統計**：送信されたパケット総数と、近接のメッシュ アクセス ポイントから正常に送信されたパケット総数のグラフを生成します。
- **メッシュ パケットの統計**：選択した各アクセス ポイントと選択した各レポート タイプのパケット キュー統計のグラフを生成します。レポート タイプは、Packet Queue Average、Packets Dropped Per Minute、Packet Dropped Count です。Packet Queue Average レポートには、MIB がポーリングされたときの各キューのパケットの平均数が表示されます。Packets Dropped Per Minute レポートには、最後のサンプル以降にドロップされたパケット数をサンプル以降の分数で割った数字が表示されます。Packet Dropped Count には、ドロップされたパケット数のカウンタが含まれます。
- **Mesh Stranded APs**：潜在的に孤立状態のアクセス ポイントを表示します。孤立状態のアクセス ポイントとは、メッシュ ネイバーと一覧表示されるが現在コントローラに接続していないアクセス ポイントや、WCS に認識されるコントローラに接続しているがメッシュ ネイバーに認識されなくなったアクセス ポイントのことです。レポートには、孤立状態と考えられる現在のすべてのアクセス ポイントが表示され、現在の検出アクセス ポイント (アクセス ポイントがメッシュ ネイバーに認識されない場合、デバイスを検出するアクセス ポイントの最後のセット) が一覧表示されます。レポートには、孤立状態のアクセス ポイントの状態も表示されます。WCS によって次の 3 つの状態として判断されます。
 - **Detected and Never Associated**：コントローラに接続したことがなく、ネイバーと認識されたアクセス ポイント。
 - **Not Detected and Previously Associated**：以前、コントローラにアソシエートされていたが、アソシエートされなくなったアクセス ポイント。メッシュ アクセス ポイントは、このアクセス ポイントをネイバーと認識しません。
 - **Detected and Not Associated**：以前、コントローラにアソシエートされていたが、アソシエートされなくなったアクセス ポイント。隣接するアクセス ポイントはこのアクセス ポイントを認識しています。
- **メッシュの最低ノード ホップ**：名前別および MAC アドレス別にメッシュ アクセス ポイントを一覧表示し、そのうちルート アクセス ポイントからデフォルトで 10 ホップ離れているものを表します。ホップ回数は変更可能です。
- **メッシュの最低 SNR リンク**：メッシュ アクセス ポイントの近接リンクのうち、最も高い Signal to Noise Ratio (SNR; 信号対雑音比) を表すリンクをデフォルトで 10 リンク一覧表示します。表示するリンクの数は変更できます。

メッシュ レポートの表示と変更

既存のインベントリ レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

-
- ステップ 1** **Reports > Mesh Reports** の順に選択します。Mesh Reports ページが表示されます。
 - ステップ 2** 左側のパネルから、Mesh Report の種類を選択します。
 - ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
 - ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
-

メッシュ レポートの新規作成

メッシュ レポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

-
- ステップ 1** **Reports > Mesh Reports** の順に選択します。Mesh Reports ページが表示されます。
 - ステップ 2** Mesh Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
 - ステップ 3** Select a Command メニューから **New** を選択します。**Go** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。
 - ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
 - ステップ 5** デフォルトの設定より多くの項目をレポートする場合は、別の値を入力します。たとえば、Mesh Worst SNR Links フィールドにはデフォルトで 10 個の最低リンクをレポートするよう設定されていますが、ここに別の値を入力することができます。
 - ステップ 6** コントローラ、フロア領域、屋外領域、フロア別 AP、屋外領域別 AP、または SSID 単位でレポートを表示するかどうかを指定します。フロア領域および屋外領域レポートは、領域単位でレポートを生成しますが、フロア別 AP または屋外領域別 AP はアクセス ポイント単位でレポートを生成します。
 - ステップ 7** コントローラを選択した場合は、コントローラの IP アドレスを入力してください。フロア領域またはフロア領域別 AP を選択した場合は、キャンパス、ビルディング、およびフロアの位置を入力してください。屋外領域または屋外領域別 AP を選択した場合は、キャンパスおよび屋外領域を入力してください。
 - ステップ 8** 必要に応じて、レポートに記載するアクセス ポイントを入力します。
 - ステップ 9** 近接の種類と表示オプションを選択します (表またはグラフ)。
 - ステップ 10** Graph Type パラメータでは、パケット数または分単位のパケット数を選択します。

ステップ 11 レポート期間を入力します。レポートを指定して、時間単位または週単位の期間のデータを収集するか、レポート期間を日時で選択できます。



(注) 時間は、午前と午後のある 12 時間ベースではなく、24 時間ベースで定義されます。たとえば午後 1 時の場合は、13 を選択します。

ステップ 12 **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。

パフォーマンス レポート

左側のサイドバーのメニューに、パフォーマンス レポートのオプション全体が一覧表示されます。



(注)

パフォーマンス レポートには、Autonomous アクセス ポイントのステータスは表示されません。

選択肢には、次のようなものがあります。

- 802.11 カウンタ レポート：802.11 カウンタで選択したパラメータに基づいて、アクセス ポイント 802.11 インターフェイスのデータ送受信の情報をグラフで表示します。
- コントローラ使用率レポート：すべてのコントローラのメモリと CPU 使用率を、設定可能な間隔で表示します。
- カバレッジ ホール概要レポート：すべてのカバレッジ ホールのアラーム概要をアクセス ポイント別やフロア別に表示します。このレポートは、クライアントで発生したカバレッジ問題の箇所を特定するうえで手がかりになります。返されるデータには、次のようなものがあります。アラームが発生したアクセス ポイントのベース無線の MAC アドレス、カバレッジのしきい値など。
- ロケーション サーバ使用率：設定可能な間隔で、すべての Location Appliance のメモリおよび CPU 使用率を表示します。返されるデータには、次のようなものがあります。無線の種類、チャンネル番号、平均 RSSI 値など。
- 無線使用率レポート：設定可能な時間で、無線の使用率をすべて表示します。
- Tx 電力レベルとチャンネルレポート：アクセス ポイントや指定フロアで発生した送信電力レベルとチャンネル番号の変更をすべて表示します。返されるデータには、次のようなものがあります。802.11a/n および 802.11b/g/n インターフェイス向け送信電力レベル、802.11a/n および 802.11b/g/n インターフェイスに使用するチャンネル番号、分類タイプなど。
- 音声統計レポート：選択したアクセス ポイントにおける音声トラフィックの無線の使用率を表示します。

パフォーマンス レポートの表示と変更

既存のパフォーマンス レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** Reports > Performance Reports の順に選択します。Performance Reports ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、Performance Report の種類を選択します。
- ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
- ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「Schedule パネルの開き方」の項 (P. 14-3) を参照してください。
- ステップ 5** 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、History タブをクリックします。

パフォーマンス レポートの新規作成

パフォーマンス レポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

-
- ステップ 1** **Reports > Performance Reports** の順に選択します。Performance Reports ページが表示されます。
 - ステップ 2** Performance Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
 - ステップ 3** Select a Command ドロップダウンメニューから **New** を選択し、**GO** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。
 - ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
 - ステップ 5** コントローラ、フロア領域、屋外領域、フロア別 AP、屋外領域別 AP、または SSID 単位でレポートを表示するかどうかを指定します。フロア領域および屋外領域レポートは、領域単位でレポートを生成しますが、フロア別 AP または屋外領域別 AP はアクセス ポイント単位でレポートを生成します。
 - ステップ 6** コントローラを選択した場合は、コントローラの IP アドレスを入力してください。フロア領域またはフロア領域別 AP を選択した場合は、キャンパス、ビルディング、およびフロアの位置を入力してください。屋外領域または屋外領域別 AP を選択した場合は、キャンパスおよび屋外領域を入力してください。
 - ステップ 7** 必要に応じて、レポートに記載するアクセス ポイントまたはロケーション サーバを入力します。
 - ステップ 8** 802.11a/n または 802.11b/g/n 無線を記載するかどうか指定します。
 - ステップ 9** レポート期間を入力します。レポートを指定して、時間単位または週単位の期間のデータを収集するか、レポート期間を日時で選択できます。
 - ステップ 10** **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
-

セキュリティ レポート

左側のサイドバーのメニューに、セキュリティ レポートのオプション全体が一覧表示されます。セキュリティ レポートには、無線ネットワークのセキュリティについての情報が表示されます。



(注) セキュリティ レポートには、Autonomous アクセス ポイントのステータスは表示されません。

選択肢には、次のようなものがあります。

- **New Rogue APs** : 選択した時間帯に検出された不正アクセス ポイントが表形式ですべて表示されます。選択した時間内に検出された新しい不正アクセス ポイントを示します。作成時刻は、不正アクセス ポイントが最初に検出された時刻です。
- **New Rogue AP Count** : 選択した時間帯に検出された不正アクセス ポイントがグラフ形式ですべて表示されます。
- **Rogue APs** : ネットワーク内のアクティブな不正アクセス ポイントと選択した時間帯に更新された不正アクセス ポイントがすべて表示されます。WCS は、検出された不正アクセス ポイントの更新イベントを受信します。
- **Rogue APs Event** : WCS が受信したすべてのイベントが表示されます。属性が変更されるか、または新しい不正アクセス ポイントが検出されると、最新の不正アクセス ポイント検出情報がコントローラから送信されます。



(注) このレポートは、正式には **Rogue Detected by AP** と呼ばれます。

- **Rogue Adhocs** : 選択した時間帯に更新されたアドホックがすべて表示されます。
- **Rogue Adhocs Event** : 選択した時間帯に WCS が受信したアドホック イベントをすべて受信します。
- **セキュリティ 概要レポート** : アソシエーション失敗回数、不正なアクセス ポイント数、不正なアドホック数、不正なアクセス ポイント接続数、または 1 ヶ月以上に渡る切断など。

セキュリティ レポートの表示と変更

既存のセキュリティ レポートを表示または変更する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **Reports > Security Reports** の順に選択します。Security Reports ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、Security Report の種類を選択します。
- ステップ 3** General パネルから、レポートの状態を定義、または変更します。
- ステップ 4** スケジュール処理を完了するには、「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
- ステップ 5** 現在および過去に実行したレポートの詳細を確認するには、**History** タブをクリックします。

セキュリティ レポートの新規作成

セキュリティ レポートを新規作成する手順は、次のとおりです。



(注) この手順またはオプションの中には、どのレポートにも必要ないものもあります。

-
- ステップ 1** **Reports > Security Reports** の順に選択します。Security Reports ページが表示されます。
 - ステップ 2** Security Reports (左側) の下にまとめられたレポートの種類のうちいずれかをクリックします。
 - ステップ 3** Select a Command ドロップダウンメニューから **New** を選択し、**GO** をクリックします。2 つのタブが付いた、入力パネルが表示されます。
 - ステップ 4** レポートのタイトルを指定します。
 - ステップ 5** コントローラ、フロア領域、屋外領域、フロア別 AP、屋外領域別 AP、または SSID 単位でレポートを表示するかどうかを指定します。フロア領域および屋外領域レポートは、領域単位でレポートを生成しますが、フロア別 AP または屋外領域別 AP はアクセス ポイント単位でレポートを生成します。
 - ステップ 6** コントローラを選択した場合は、コントローラの IP アドレスを入力してください。フロア領域またはフロア領域別 AP を選択した場合は、キャンパス、ビルディング、およびフロアの位置を入力してください。屋外領域または屋外領域別 AP を選択した場合は、キャンパスおよび屋外領域を入力してください。
 - ステップ 7** 必要に応じて、レポートに記載するアクセス ポイントまたはロケーション サーバを入力します。
 - ステップ 8** レポート期間を入力します。レポートを指定して、時間単位または週単位の期間のデータを収集するか、レポート期間を日時で選択できます。
 - ステップ 9** **Schedule** タブをクリックして、スケジュール処理を完了します。「[Schedule パネルの開き方](#)」の項 (P. 14-3) を参照してください。
-

